

2025年7月11日  
公益財団法人 日本英語検定協会

英検協会『統合報告書 2025』(pp.17-18)

【コラム第2弾】

「2024年度の取り組み ～変化を見据えた対応～」

問題制作・採点業務改革

—本報告書の主なトピックを毎週金曜日に順次ご紹介しています—

先般、7月1日に英検協会として初めて「統合報告書 2025」を公開いたしました<sup>※1</sup>。その際、本報告書の主なトピックを毎週1回、コラム形式でご紹介することをお知らせしておりました。今回は、タイトルの通り、本報告書の pp.17-18 の2024年度における英検協会の問題制作・採点業務改革について、ご紹介申し上げます。先週7月4日(金)に公開しました、「データで見る英検®～他グローバル試験と比較しても、受験者が多く、金額が安価～」のコラムも、ぜひこの機会にご高覧いただきますようお願いいたします<sup>※2</sup>。

- ※1 英検協会初、10年の成果とDX戦略をまとめた『統合報告書 2025』公開 (2025年7月1日付)
- ※2 [【コラム】統合報告書 2025 | 他グローバル試験に引けを取らない英検 \(受験者数・検定料\)](#) (2025年7月4日付)

なお、今後も引き続き、毎週金曜日にトピックをご紹介してまいります。

The infographic is divided into several sections. At the top, it lists three main areas of improvement: '問題制作・採点業務改革' (Problem creation and grading business reform), 'デジタルサービス推進' (Digital service promotion), and '英検S-CBT海外展開' (Expansion of Eiken S-CBT overseas). Below this, it discusses '組織・人材の強化' (Strengthening organization and human resources) and '時代の潮流をとらえて新たな挑戦を続ける' (Continuing to embrace new challenges in line with the trends of the times). A central section titled '問題制作・採点業務改革' (Problem creation and grading business reform) details the '新設験の開発とデジタルテクノロジーの活用' (Development of new exams and use of digital technology), mentioning the introduction of AI and the use of AI for content creation and grading. To the right, a section titled '問題制作・採点業務のプラットフォーム化、AI化' (Platformization and AIization of problem creation and grading business) explains the shift to a cloud-based system and the use of AI for content creation and grading. At the bottom, there are two bar charts comparing 'AI導入の課題数' (Number of issues with AI introduction) and '採点' (Grading) performance between 'AI導入前' (Before AI introduction) and 'AI導入後' (After AI introduction). The charts show a significant reduction in issues and an increase in grading efficiency after AI implementation.

## (コラム)

### 作問も採点も AI で効率化：価値創出集団へ進化した英検協会の挑戦

#### コラムのまとめ

- ・AI 化：作問・採点を効率化
- ・工程改革：デジタルプラットフォームでリードタイム短縮
- ・組織改革：価値創出集団への転換 ➡ 準 2 級プラスの誕生

英検協会は、AI とデジタルプラットフォーム化により、作問コスト約 6 割削減、採点コスト約 3 割削減。それにより、組織改革が図られ、準 2 級と 2 級の高い壁に着目し、31 年ぶりの新設級「準 2 級プラス」が誕生しました。

#### ■ “人の知見 × AI” で作問・採点を効率化

英検協会は、問題制作と採点をデジタルプラットフォーム化し、AI が支援するハイブリッド体制へ移行しました。これらの取り組みにより、作問コストは約 6 割削減、採点コストも約 3 割削減。AI は、制作工程を補助し、イラスト自動生成も進行中。人と AI の協働型の運用により開発サイクルが短縮され、新たな付加価値創出を目指します。

#### ■ 「準 2 級プラス」— 2 年の壁を越える中間ステップ

価値創出集団へ転換したことにより、英検 5 級から準 2 級までは各級 1 年ほどで到達できるのに対し、準 2 級から 2 級へは 2 年近く必要という高い壁の課題を埋めるべく、解を導き出しました。それが、「準 2 級プラス」です。身近な社会的話題を扱いながら 4 技能をバランスよく測定し、段階的な成功体験を提供します。高校卒業時に目標とされる 2 級取得へ向けた明確な中間目標となり、学習モチベーションを継続的に高められます。

※「英検」およびそのロゴは、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標または商標です。

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 日本英語検定協会 広報担当 (kouhou21@eiken.or.jp)